
夢の代償

極楽天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の代償

【Nコード】

N9443A

【作者名】

極楽天

【あらすじ】

父の夢のために、貧しさに耐える家族。そこまでして彼が追い続けるものとは……

弟が泣いている。

またか、とうんざりした。

「お兄ちゃん、なんでボク、おもちゃ買ってもらえないの？」

何度も聞かされてきたこのセリフ。

いい加減に理解してほしいものだ。

「いいか、コウタ。ウチにはお金がないんだ。他の家とは違うんだよ」

「どうしてウチにはお金がないの？」

「それは父さんに聞くといいよ」

年の離れた弟を冷たくあしらひ、自分の部屋に戻る。

隙間風が入り、ほとんど外と変わらないように思える室温。

強い風が吹くと、窓がガタガタと音を立てる。

もう慣れてしまったが。

はつきりいつてウチは貧乏だ。

これは間違はなくあのクソ親父のせいだ。

まともに働いてるはずなのに、ウチにはほとんどいいほど余裕がない。毎日カツカツの生活を強いられている。服はバーゲン品か、リサイクルショップで買ったもの。食事も本当に質素なものばかりだった。

小さい頃、おれも母さんに聞いたことがあった。

「どうしてウチはこんなに貧しいの？」

「それはね、父さんがたくさんのお金が必要だから、毎月ほとんど貯金しているからなの」

「父さんはなんでそんなにお金が必要なの？」

「夢のためよ」

困ったような微笑をうかべ、母さんは口を閉ざす。

きつと母さんも辛かったんだと思う。

当時のおれはそんなことは当然理解できず、泣き喚いてよく母さんを困らせた。

そう今のコウタと同じように。

あの親父の夢のために、おれたち家族は今まで犠牲になってきた。買いたいものもほとんど買えず、いつも同じようなメニューで生活してきた。

はつきりいつて、おれは親父を憎んでさえいた。

けれども目に見えた反抗を見せるでもなく、粛々と毎日を過ごしていた。

母さんにこれ以上辛い目を見せたくなかったからである。

そんなにも大金が必要な親父の夢。

それがいつたいたいなんなのか、ずっとおれにはわからなかった。

けれども、ある雪のちらつく寒い日、とうとうおれはそれを知ることになる。

十八歳の誕生日に、父さんがおれの部屋にきた。

「すまん、ミツタカ。こんな辛い生活を送らせてしまって」

「なんだよ、急にあらたまって」

「もうおまえも立派な大人だ。だからいろいろ話をしようと思ってな」

「いろいろ？」

「そうだ。例えば、なぜウチはこんなに貧しい生活をしなければならぬか」

「それは親父が金を無駄に使ってるからだろ」

そこで語気が強まってしまふ。

なにをいまさらという気がしたのだ。

恐らく途方もない親父の夢物語のために、おれたちはこんな生活を送っているのだ。

「たしかにそうかもしれん。でも仕方ないんだ」

「仕方ないなんてことがあるかよ」

「父さんもしたくて、こんなことをしてるんじゃない」

「どういうことだよ？」

「ミツタカ、父さんが何に金を使っているかわかるか？」

「いや」

軽く首を振る。

具体的なことはまだ知らなかった。

「どうせ競馬とかパチンコとか、そういうのだから」

父さんはゆっくりと首を横に振った。

少し意外な感じがした。

「じゃあ何に使ってるんだよ」

ゆっくりと息を吐き、一呼吸置いてから父さんは話し始めた。

「これはな、代々伝わっている家業なんだ。父さんの父さん、つまりお前のおじいちゃんも同じことをしていた。父さんもいつもじいさんに反抗してたよ。こんなに貧乏なのはお前のせいだってね。でも、今その立場になってみて、じいさんの気持ちもよくわかる。言わばこれはウチの家系の宿命かもしれない」

「宿命？ そんな大げさな」

「大げさではない。そのせいでウチの家系は代々貧しい思いをしてきたんだからな」

「誰かがやめようと思わなかったのかよ」

「恐らくそう思った人もいると思う。だが、これは途絶えさせてはならない伝統なんだ」

「誰かが不幸になる伝統なんてそんな」

「仕方がないのだ。それをやめることによって、たくさんの方が不幸になるかもしれん」

「たくさんの方が不幸に？ つまりウチの家系は生贄ってことかよ」

「そう、なるかもしれんな」

「なんだよ、それ」

「仕方ないのだ。分かってくれ」

父さんの目から涙が落ち、おれは言葉を失った。

はじめての父さんが泣くところを見た気がする。

ボロボロと大粒の涙が、頬を伝わる。

きつと父さんも辛いのだ。

おれらばかりが辛いではなかったのだ。

あらためて父さんの姿を見つめる。

体格のいい大きな身体。

やさしそうな目。

たくわえられた立派なひげ。

「ウチの家系はみな同じような体型になる。これは遺伝なのかもしれない。今は痩せているがお前もきつと太りだすはずだ。そして、いかミツタカ、ひげを伸ばすんだ。立派なひげを蓄えろ。これは逃れられない宿命。お前もいずれ跡を継ぐことになる。そのときお前に、代々伝わる赤い衣装を授けよう」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9443a/>

夢の代償

2011年2月14日14時38分発行